



## 阿部 和則 議員 … 1 件の一般質問

### 町の問題さまざま ～どうしますか

町長：きちんと整理し、取り組んでいく

**阿部**

我が町にはさまざまな問題が山積しているが、その中でも議会で指摘した問題について、その後の進展状況を伺う。

①「除雪ヘルパー派遣事業」は、受けられる世帯に条件があるとはいえ、該当世帯の2割程度しか利用実績がない。

周知方法の改善はどうしたのか。

「倶知安町第二次雪対策基本計画」の策定が進んでいるが、町内会や地域における自主的な取り組みについて、この計画の中での位置づけと支援方法のあり方の構想は。

「廃屋・空き家条例」は、道のモデル条例や実施自治体も多くあり、制定は容易と考えるが、今年度中に間に合うのか。

②厚生病院の問題、とりわけ患者数の動向とそれに伴う27年の黒字化計画の進捗状況を伺う。

③東陵中学校跡校舎利用の一番候補だった保育所としての活用には、否定的な結論がでたが、今後の進め方を伺う。

④保育所は、東陵中学校



除雪ヘルパー大活躍

への移転が困難になり、新築の道しかなかったが、いつ決断するのか。

⑤給食センターの建設には多額の費用がかかることから躊躇しているが、建てることによる財政状況のシミュレーションが必要ではないか。

**町長**

①民生委員の方々に毎年、対象者調査をお願いしているが、町広報にも制度内容を掲載し周知していく。

除雪の課題において、地域で助け合う仕組み作りは、さまざまな課題を解決する一つであり、町としても多くの町内会に広げていき、自主的に取り組む町内会を支援していきたい。

本年5月に庁舎内検討委員会を立ち上げ、町内会アンケート等を実施している。来年3月をめどに条例化や関連施策の策定を進める。

②月ごとの多少の増減はあるが、外来の患者数は増加傾向にあり、経営改善に向けた明るい兆しが見え始めている。

今後も病院・住民・行政が一体となって地域に必要な医療を守るための取り組みができる環境づくりに努める。

③今後も公共施設としての活用を視野に、担当部局との検討・協議を進めて、早期に方向性を示せるよう取り組んでいく。

④保育所の施設整備は早急に進めたいが、建てることも建てないとも今ここでは差し控えていた

**教育長** ⑤財政的な可能性の検討について、財政当局と協議を行い、精力的に作業を継続していく。

**阿部**

②厚生病院の問題は、かなり経営改善が進んでいるとの答弁だが、目標とする27年度黒字化達成は実現できるか再度伺う。

④保育所問題は、我が町の持つ特性と照らし合わせて考えてほしい。

30年後は、岩内町が人口1万人を割り、余市町も本町に逆転される。若い世代が少なく、出生数も本町を下回っているから起きる現象だ。人口の減り続ける町に



保育所も新築が急がれる

未来は無い。だから子育て支援をきちんとする必要がある。気兼ねなく子供を預けられる保育サービスを充実しなくてはならない。

**町長**

④保育所は、急ぐべきものだと思う。きちんとした形でやらなければいけないので、もう少し検討させていただく。

**担当**

平成27年度において厚生連としては、不採算医療を除いた部分について、赤字を基本的に解消する計画をたてている。







## 森下 義昭 議員 … 2 件の一般質問

### 日光市との観光パートナー都市協定や 通年観光の可能性は

町長：観光客の憩いの場の提供に努める



日光仮面とともに福島町長

**森下** 本町は、平成22年に日光市とパートナー都市協定を締結したが、どんな交流が行われたのか。

また、国定公園を抱えている周辺地域の何をどのようにして自然景観を観光客に堪能させ、通年観光の可能性を生み出すのか。町長の見解を伺う。

**町長** 協定後の事業として、観光プロモーションの取り組みとして国内観光振興プロモーションの取り組みとして、

シヨンの実施、観光パンフ・ポスターの提供等連携して観光PRに努めている。

世界遺産である日光の社寺をはじめ、多くの観光資源の視察をしてきた。人的交流としては、平成22年に倶知安訪問団として日光へ行き、平成24年には日光市長などが倶知安を表敬訪問した。

今後も青少年の交流として、平成26年に子ども特派員派遣事業を予定し、協力体制を築いていく。

通年での観光要素を多彩に持ち備えている地域でもあり、多くの観光客を迎えるの自然景観の保全については、観光協会やNPBとの連携を図り、各種ハイキングコース等の整備のほか、二セコ山系観光連絡協議会として、管理保全に細心の注意を払って、

観光客の憩いの場の提供に努める。

**森下** アウトドア関係等は盛んだが、街中の観光面が観光客に周知されていない。ヒラフに多くの長期滞在者が来ているようだが、美術館や風土館等には見受けられず、駅に降り立っても、観光案内板は小さく、町全体が把握しにくい。

旭ヶ丘総合公園内のジャンプ台の撤去により、レルヒ中佐の記念碑があるところに、倶知安が一望できる展望台を整備し、今後の整備振興を図るべきと思う。

**町長** 姿勢を正して対応し、気遣い・心遣いをきちんとしたいと思う。

**町内に散在する公園の管理と整備**

**森下** 町内には、28カ所の公園と名のつく所があるが、町民が子供連れで楽しめる場所（遊具のある場所）は、どの程度あるのか。

また、景観を堪能でき

る箇所、名前だけの箇所はそれぞれどの程度あり、今後、どの時点でどのような整備を行うのか、見解を伺う。

**町長** 本町には、都市公園の位置づけで13カ所、都市公園指定外（団地内公園・その他公園）施設が25カ所、合計38カ所ある。

景観を堪能できる箇所として、旭ヶ丘総合公園、レルヒ記念公園、ひらふ公園があげられる。

遊具のある公園は、現在13カ所で29基の遊具があり、子どもの遊び場の特性や遊具の事故例を踏まえ、年に一度の安全点検や日常点検を実施し、状況の確認をしている。

公園施設長寿命化計画の策定を行い、年次ごとの更新をしているが、整備計画の見直しが必要と



旭ヶ丘総合公園 ～わんぱく広場～

遊具の減少や老朽化は、子どもの遊び場の魅力や楽しさが失われ、公園の利用も減っている。

来年度、既存遊具の老朽化や使用不可による撤去数がいちじるしいことから、遊具施設整備の全般的な見直しや公園二丁を踏まえ、効率的な整備更新をしていく。

**森下** 遊具を含め雨天等をしのぐところの確保や早期の公園整備の実行を望む。

### 3 件の一般質問

## 防雪柵の早期設置を

町長：早期に工事が完了し  
冬期間の安全確保を図りたい



冬道の安全確保を ～国道 393 号線防雪柵設置工事～

鈴木 今年、国道393号線の一部だが防

雪柵が設置されることになり、工事も始まった。一番事故が多い所まではまだまだ遠く、新年度においても引き続き、開発局等へ要請してほしい。また、事故の多い所から先に設置できないか。

町としても少しでも早く工事が完了

**町長** 町としても少しでも早く工事が完了して、冬期間の交通安全確保が図られることを願っている。

町道西3号通りの  
道路改良予定は

工事区間場所、順序については、平成22年度に小樽開発建設部と地域住民との協議の中で十分調整を図つての計画となっている。

引き続き、要望活動を行っていく。

① 国道393号開通後、京極、比羅

鈴木 ①国道393号開  
通後、京極、比羅  
夫方面に向かう町道西3  
号通りだが、大型車も大  
変多くなり、砂利川に架

かる橋が狭く危険である。  
町長の見解は。

②旧八幡小学校の交差点は、安全確認がしづらく、冬道ではブレーキをかけてもオーバーランする時もある。信号機の設置を願う。

③羊蹄の裾の走る俱知安・京極線から西3号へ入る案内表示板等の設置を願う。

町長 ①平成24年度長寿  
命化修繕計画の点

**町長** ①平成24年度長寿  
命化修繕計画の点  
検では、鋼部材の腐食、  
コンクリートのひび割れ  
が一部みられ、損傷が大  
きいことから、詳細調査  
を実施し、補修・補強の  
検討を行う必要があると  
認識している。

橋のみの改修ではなく、道路との一体的な改良が望ましいと思うが、複数の損傷の著しい道路・橋があり、今後も定期点検の結果を見ながら計画的な改修を進める。

②交通量の増加とともに安全確認がしづらい場所があるので、地域の方々のご意見・ご意向を聞き、必要に応じて俱知安警察署交通課と協議を行い、

③案内標識が設置される。

いないので、道路利用者にはわかりにくい状況となっている。

しかし、町道西3号線の沿道は、農家住戸が立ち並び、歩道の整備もされていらない農村地帯なので、農繁期には農作業車両が頻繁に通行するなど交通事故発生が危惧される。

現状の中で、道路案内標識を設置して、町道西3号線へ誘導することは控えたい。

## 閉校後の敷地の管理

鈴木  
敷地 閉校された  
(グラ

ウンド)等の管理  
雑草等の除去や草  
刈りは。

町長 閉校となつたグラウン

トを含む学校敷地は、東陵中学校を除く8カ所、普通財産で所有する現状としては、町内



### 瑞穗小学校跡地





## 盛多 勝美 議員 … 2 件の一般質問

### 馬鈴薯生産の現状と将来は

町長：馬鈴薯は本町農業の基幹作物であり、4年輪作体系の確立とあわせた総合的な対策が必要

#### 盛多

①馬鈴薯の品種ごとの作付け割合、出荷先の市場・消費者（需要動向）と市場価格動向は。

②シスト対策としてD・D薬剤の購入費補助とシストセンチュウ抵抗性の種子に対する助成は。

③シストの検診結果から大変危惧する状況にある。これまでも長きに渡り対策を講じてきたが、発生圃場は増加傾向にあることから、新たなシスト対策の検討と今後の取り組みは。

#### 町長

①馬鈴薯作付面積は男爵777ha、キタアカリ149ha、とうや119ha、キタカムイ53ha。出荷先は、京浜方面30社で70%、関西方面10社で20%、残り中京方面10社の10%。

市場評価は、男爵は生鮮・加工を含めて安定供給ができることから、他産地に比べ量販店を含めて引き合いが強いが、キタアカリは、果肉が黄色系なので加工向けには敬遠される場合もある。

9月初めの価格では、



俱知安産 男しゃくいも

10kg当たり男爵1700円から1800円、とうや1500円から1600円で取引されている。

②シスト対策D・D薬剤の使用時期が、収穫作業や天候不順に重なることが多く、10ha未満にとどまっている。

町と農協で助成し、今後20haの実施を見込んでいる。抵抗性品種の導入助成は、約40haの計画に対し、70haを超える実施状況である。

③シストセンチュウの状況は、平成20年から5年間に於いて、平均92%の発生率である。

平成24年に土壌診断した圃場では、758圃場のうち、652圃場（86%）で発生している。

一般圃場では、ほぼ全域にわたる発生が確認されており、蔓延増殖防止対策の啓蒙活動等を行っている。

今後、支援策の見直しや拡充について、関係機関と十分協議して取り組んでいく。

#### 休日夜間急病センターの運用見直しは

#### 盛多

①患者の利用状況は。

②医師の確保・地元の医師で間に合っているのか。

③今後の運用見直しは。

#### 町長

①1月から8月26日までの外来者数は、852人で、総合診療科246人、小児科223人、整形外科174人と3科で75・5%を占めている。

②急病センター開始時は、地元の医師会会員の先生方に全日お願いしたが、当初の目的である土曜日曜祝日と平日の夜間に順次拡大していくには、地元医師の絶対数が不足している。

本年度4月から、札幌市内や道外からの医師の



地元医師会により運用される急病センター（俱知安厚生病院）

協力を仰いで継続的に実施してきた。

③地域住民に安心してもらえる救急医療体制を安定的かつ継続的に運営していくためには、協力してもらおう医師の確保が大変重要な課題である。

引き続き、地元医師会に協力を仰ぐとともに、管外の医師への協力や支援要請に力を注ぐほか、地域住民には、救急医療

の適正な利用に関し、周知徹底と理解の促進を図る取り組みを進める。

厚生病院も若い医師の増加により、協力してもらえぬ医師も増え、明るい兆しも見えてきている。道や関係機関の協力を得ながら、当初の目標とする休日夜間急病センターの設置運営に向けて取り組める。